

西諸県地域の普及活動

令和6年11月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 第20回えびの市米・食味コンクールが開催

20日に、JA えびの市本店において、「えびの市 米・食味コンクール」が開催されました。出品数はヒノヒカリが121点、にこまるが3点でした。審査員による食味審査の結果、ヒノヒカリの部最優秀賞に柗山 義臣さん、優秀賞に田村 誠一さんと竹内 忠司さんが選ばれました。

なお、団体賞は下大河平自治会、小学校の部最優秀賞には真幸小学校がそれぞれ選ばれました。

来賓で参加された河野知事からは「今回初めて食べ比べをしたが、ツヤツヤとした見た目や舌触りが良いお米でした。また、今後の米生産は食料安全保障の面からも非常に重要な取り組みです。」との挨拶を頂きました。



【最優秀賞授与の様子】

2) 11月期子牛郡品評会が開催

8日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和6年11月期子牛郡品評会が開催されました。

11月14日から16日に開催される11月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た34頭が出品され、審査の結果、優等賞に7頭、尙等賞に15頭、弐等賞に12頭が選ばれました。なお、優等賞首席は高原町の入木和馬さん出品の「なお」号（羅王45-耕富士-安重守）、2席は小林市の森田直也さん出品の「かつかつ」号（二刀流-勝光喜-美徳国）、3席は小林市野尻の相牟田正明さん出品の「あい547」号（耕富士-秀菊安-勝平正）が受賞されました。

受賞牛は全て、発育良好で、体積豊かであり、輪郭鮮明との講評でした。



【優等賞首席 なお号】

3) 農業講演 in 野尻中学校

26日に、野尻中学校において、JA こばやし青年部野尻支部主催の講演会が開催されました。当講演会は、西諸県地域の魅力と可能性を中学生に知ってもらうことで、学生の将来の選択肢を広げてもらうことを目的に行われたものです。講演会では、西諸県農業改良普及センターの黒木農業経営課長が「最先端の技術と未来の農業」をテーマに講演を行いました。中学生からは、農業の可能性を知ることができてよかったとの意見があり、先生達からも好評で、将来の職業選択の一つとして農業を考えるきっかけとなりました。



【話を熱心に聞く中学生達】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

13日に、えびの市いちご団地の研修生2名に対して就農相談を行いました。

新規就農に向けたスケジュールの確認や施設確保の方法など、就農を開始するために自身で進めておく内容について助言を行いました。

また、同日に、小林市で施設野菜での就農を希望する1名に対して就農相談を行いました。研修前の当面の生活資金確保の必要性和、農業が未経験だったので本格的な研修に先立ち、まずは短期間でも農業経験をする必要性について助言を行いました。

※就農相談対応 3者2回

(内訳 小林市：施設野菜1者、えびの市：施設野菜2者)

2) 第7回、第8回アグリ★ベーシックセミナー(畜産)を開催

6日、20日に、アグリ★ベーシックセミナーの畜産農家向け研修会を開催しました。

内容は、6日に肉用牛繁殖経営を取り巻く外部環境の説明と子牛の生産性を上げていくための母牛の飼養管理について、11日に市場性の高い子牛を育成するための子牛の飼養管理について、研修を行いました。

来月以降も畜産農家の要望を踏まえながら、正しい知見・情報に基づく内容の有意義な研修会を行っていく予定です。



【講義内容に熱心に聞き入る参加者】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 普通期水稻収量調査を実施

9日、10日に、西諸県農業改良普及センターにおいて、普通期収量調査を実施しました。

今年度実施した水稻の展示ほや定点ほ場の坪刈りを行い、稲わらや玄米の重量から収量を算出しました。今年度は、1穂粒数が平年の112%と多いものの、登熟歩合や千粒重が平年より低下したため、収量は平年の92%となりました。これらの結果を踏まえ、今年度の管内水稻生産状況を把握するとともに、次年度に向け、高品質な水稻生産のための技術指導を行っていく予定です。



【脱穀や唐箕作業の様子】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 営農組合長連絡協議会視察研修が開催

29日に、小林市、高原町の集落営農組合の代表者7名の参加のもと営農組合長連絡協議会の視察研修が都城市のベジエイト(株)と霧島酒造(株)で行われました。

ベジエイト(株)では、かんしょの選果場を視察した上で、先進的な農業法人の取組や生産状況の説明及び意見交換が行われました。

霧島酒造(株)では、霧島さつまいも種苗生産センター「イモテラス」で原料用かんしょ苗の確保に向けた取組について説明を受けた後、焼酎工場の視察が行われました。

また、研修の最後には、普及センター及びJAこばやしからサツマイモ基腐病発生が少ない西諸地域でかんしょ苗を生産する意義やメリットを説明した上で、各集落営農組織でのかんしょ苗生産についての提案が行われました。

今回、参加者にはかんしょ生産者もおり、研修内容への関心は高く、苗生産についても前向きに検討していきたいといった意見も聞かれました。



【霧島酒造「イモテラス」での研修】

(魅力的な子牛産地を支える実力ある肉用牛繁殖経営の確立)

1) セリ前講習会を開催

11月14日から16日にセリ前講習会を開催しました。

本講習会は8月から開催しており、肉用牛繁殖経営における牛の飼養管理や飼料作物の栽培等の基礎的な技術をテーマにして毎月開催しています。

11月は普及センターから「増し飼いの重要性について」、都城家畜保健衛生所から「ランピースキン病について」というテーマで講習を行い、生産者は熱心に耳を傾けていました。



【講習会に聞き入る生産者達】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAえびの市いちご団地講習会(第5回)

8日に、えびの市いちご団地において、研修生2名を対象とした講習会が開催されました。普及センターからは①寒波への対応②草勢の管理③ミツバチの管理について説明しました。11月に入りいちごの収穫が始まりました。

今年も美味しいいちごを多く収穫できるよう技術支援を行っていきます。



【普及センターの説明を聞く生産者】

2) 令和6年度JAこばやしきゅうり生産部会定期総会

21日に、小林市管内においてこばやしきゅうり生産部会の定期総会が開催されました。総会では第1～5号議案まですべて承認され、令和7年産が無事スタートしました。令和6年産は曇雨天や高温などにより栽培が難しい年となりましたが、そのような中でも品評会において優秀な成績を残された生産者が多数おり、産地の技術力の高さを感じました。引き続き令和7年産も収量向上に向けて支援を行っていきます。

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 梨ぶどう園地台帳作成

6日に、西諸県地域の梨ぶどう生産者を対象に、園地台帳の作成のための聞き取り調査を開始しました。聞き取りは小林市役所、JAこばやし、普及センターが協力して行っており、年度内の聞き取り完了を目標としています。園地台帳は今後の産地規模や労働力の過不足の予測や、事業承継も含めた地域内の資源の有効活用につなげます。

2) JAこばやしマンゴー部会役員会

7日に、JAこばやし三ヶ野山出張所で標記役員会が開催され、生産者約9名、関係機関約5名が参加しました。今後の部会行事について協議を行い、11～12月に各支部定例巡回、女性部研修、全体研修を行うこととなりました。全体研修では、亜熱帯作物支場から研究員を招き、試験結果を共有してもらう予定です。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

3) 小林市果樹農業振興対策推進協議会 岡山県ぶどう視察研修

18～19日に、標記研修に生産者7名、小林市役所1名、普及センター1名が参加しました。岡山県内の2件のぶどう園地を見学し、管内ぶどうとの生育の違いを感じ、管理方法等の聞き取りを行いました。また、着色不良や副梢管理等の課題は同じであり、対策に苦慮していることが分かりました。生産者は、今回学んだことを来作に活かそうと熱心に意見交換をしていました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【梨ぶどう岡山県視察】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) ラナンキュラスの生産支援の実施

西諸県管内のラナンキュラスの切り花生産者9戸、球根生産者1戸のほ場の巡回及び支援を行いました。

10月は曇雨天の日が多く、気温が高い時期が続いたこともあり、株の枯れや生育不良が発生しています。

球根生産については、管内の生産者と一緒に綾町の生産者の視察を行い、芽出しの仕方について意見交換を行いました。この意見交換は、管内の生産者自身の栽培管理の見直しにつながりました。



【綾町の生産者と管内生産者との意見交換】

2) JA みやざきこぼやし花卉部会の定期巡回及び定例会が開催

27日に、小林市管内において、生産4名、関係機関4名が参加し、キク生産者3戸のハウスについて12月年末出荷型を中心に巡回を行い、生育状況と今後の管理について確認を行いました。一部予定より前進化しておりますが、生育は概ね順調です。

定例会では、JAから情勢報告が行われ、現在の単価や12月年末出荷の市場の動向について説明されました。普及センターからは、植物生理と病気について説明を行いました。

来年1月からは運賃が値上げされ、生産者の経営がさらに圧迫されます。単価の安定を図るため、生産者とJAは市場への販促活動を行っています。



【JAから販売情勢を聞く
生産者と関係機関】

3) 高原町花卉部会の定期巡回及び定例会が開催

28日に、高原町管内において、生産3名、関係機関3名が参加し、キク生産者3戸のハウスについて12月年末出荷型を中心に巡回を行い、生育状況と今後の管理について確認を行いました。今年的气候でも、2Lのボリュームのある株ができており、高単価が見込めます。

定例会では、JAから情勢報告が行われ、12月年末出荷の状況や今後の市場の動向について説明されました。普及センターからは、植物生理と病気について説明を行いました。

引き続き関係機関と協力し、部会の活動を中心に支援していきます。



【ほ場の状況について意見を
交わす生産者と関係機関】

(20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

1) 茶の肥料・農薬座談会の開催

22日に、小林市内において、西諸県茶業振興協議会を対象に、令和7年産の茶生産に向けた肥料・農薬座談会が行われ、茶生産者13名および関係者(JA、市町、肥料・農薬メーカー、振興局、普及センター)が出席しました。

普及センターからは、茶栽培こよみの改訂や省力・低コスト肥料試験に関する情報提供を行いました。

今後も関係機関では、茶の生産性向上に向けた資材の検討や各種の情報提供を行って参ります。

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) 西・北諸農業経営指導士会合同研修会を開催

12日に、北諸県と合同で農業経営指導士会の研修会を開催しました。今年度は北諸県が主催で行い、肉用牛繁殖経営K氏の農場と、株式会社都城くみあい食品の2カ所を見学し、意見交換をしました。

K氏は、本人と娘の2人で経営しながら、農繁期には和牛ヘルパーを上手に利用して平均出荷率90%の成績を出している優良経営体であり、生産技術面に関する多くの質問がされました。

また、都城くみあい食品の視察では、野菜を加工する過程を見学し、消費者のニーズを把握しながら、冷凍野菜の製造をされていることを学びました。指導士は積極的に質問をしながら意見交換をし、前向きな姿勢で参加をされていました。

来年度は西諸県が主催するため、双方の指導士にとって大いに学びになるよう、研修の計画を立てていきたいと思えます。



【肉用牛繁殖経営の指導士の農場】



【くみあい食品工場】

2) 女性農林漁業者ネットワーク交流会へ参加

11日に、延岡市で行われた女性農林漁業者ネットワーク交流会に西諸県地区女性農業者サポート協議会構成員8名、事務局5名が参加しました。

パネルディスカッションでは、各パネラーより日常の「はて？」と思うことについて共有が行われ、SDGsの取組にとっても、女性がもっと自信を持って参画していくことが重要だといった意見が上げられました。また、意見交換会ではそれぞれ8名程度のグループに別れ、普段の仕事等について自由に意見交換を行うなど、参加者同士の交流が図られたところです。

今後、西諸県地域でも女性の力を農業に活かしていくための研修会等を開催していく予定です。



【パネラーによるディスカッション】

3) 「西諸県地区農業水利総合開発促進協議会」幹事会及び担当者会の開催

14日に、小林市野尻庁舎において「西諸県地区農業水利総合開発促進協議会」幹事会及び担当者会が開催され、小林市長並びに関係機関(市町、JA、西諸土地改良区、振興局、普及センター)の26名が出席しました。

小林市からは、畑かんに関する取組みや今後の推進に関する説明が行われ、普及センターからは、管内農業の明るい未来に向けた畑かん水の有効活用等に関する情報提供を行いました。

今後も、関係機関と連携し、地域の畑かん営農推進に向けた取組を行って参ります。

4) 令和6年度JAこばやしゴーヤー生産部会定期総会

15日に、小林市管内において、こばやしゴーヤー生産部会の定期総会が開催されました。総会では議案のすべて承認され、令和7年度がスタートしました。今作は害虫の多発生や高温障害などにより、生産者にとって栽培が難しい年となりました。7年度の夏場も高温障害の発生が考えられますので、関係機関と連携して栽培支援を行っていきます。



【表彰を受ける生産者】

5) 果樹調査研究(環境制御技術)の打合せ

26日に、南那珂普及センターで標記打合せが行われ、西諸県普及センターからは園芸経営担当1名、地域企画担当1名が参加しました。室内会議では炭酸ガス施要による品質・収量向上効果の検討や、技術導入者向けのマニュアル検討、技術導入に関する経営評価等を行いました。現地視察では、令和4年から炭酸ガス施用を開始した園地を見学し、新梢や花芽の状況を確認しました。

今後は環境データの分析や、栽培管理チェックシートの見直し等を行う予定です。引き続き、地域の課題に取り組んでいきます。



【果樹調査研究 現地視】

6) 西諸管内のランンキュラス作付調査の実施

14日に、西諸県花き技術員会員8名とJA宮崎経済連2名で、JAこばやし管内のランンキュラス生産者7戸のほ場の作付け調査を実施しました。また、18日に、関係機関3名で、JAえびの市管内のランンキュラス生産者2戸のほ場の作付け調査を実施しました。

定植後約1か月が経過したほ場の状態について、関係機関で共有することができました。

今年は、定植時期の曇雨天や高温などの影響により、株枯れや生育不良が例年より多く発生している印象でした。引き続き、関係機関で協力し、気候変動に対応した支援を行っていきます。



【高原町ほ場における定植株の調査】



【えびの市ほ場における定植株の調査】

7) 生駒高原における「花から広がる中山間地の活性化」の実証

7日及び21日に、生駒高原において、管内の鉢苗物生産者3名と関係機関3名で、ラナンキュラス等の花の定植作業を行いました。

花から広がる中山間地の活性化と地域経済の好循環化計画の活動の一つとして、観光地と農業の連携により、観光客の集客と管内花きの消費拡大を目的に、管内で栽培されているラナンキュラスを中心に、生駒高原での開花実証や集客への影響を調査するものです。

初めての試みですので、不透明な部分ではありますが、予定通りに進めば2～3月頃に開花予定となっています。

地域を活性化させたい、との意欲が高まっていることもあり、管内の花き生産者や事業所などと連携し、地産地消を見据えた取組を支援していきます。



【生産者とともに実証場所の土づくり作業】



【生産者とともにラナンキュラスの定植】

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。